

令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

第1学年【国語】

1. 実態の分析

- 1学期における「読むこと」のテスト結果を見ると、達成率は約90%である。しかし、約2割の児童は、問題の形式に慣れておらず解答できない、問題の意味を理解できていない、又は、問題文をよく読んでいないため誤答をするということがあり支援をした。
- 「言語についての知識・理解」の助詞「は」、「を」、「へ」では、選択式であれば9割の児童が正しい答えを選ぶことができるが、文を書くことになると正しく表記できるのは7割程度であった。また、ひらがなを正しく読む・書くことが難しい児童は、1割程度であった。
- ひらがなを書く際、「とめ」「はね」は、ほとんどの児童が意識して書くことができる。一方で、丁寧に書くことを意識しすぎて鉛筆が止まってしまい、「はらい」を苦手とする児童が多い。

2. 改善策

- 段落や場面ごとに何が書かれているか大事なことを読み取り、ワークシート・ノートにまとめる活動を行うことで、順序を意識させながら読むこと、イラストや挿絵と言葉を対応させながら読むことができるようにする。
 - 短作文を書く活動を多く取り入れ、正しく文が書けるようにする。文章を書き終えた後は、必ず読み返す習慣付けの指導をする。その際、読み返すポイントを提示する。さらに、音読や視写を学習に取り入れ、語のまとまりを意識させ、語彙力を増やすようにする。
 - 字を書く際は、「トン（とめ）」、「スー（はらい）」、「ピョン（はね）」といったオノマトペを活用し意識して字を書けるようにする。
- <改善策に対する検証>
- 自分の考えたことを短い文で書ける児童を8割以上にする。
 - 單元ごとのワークテストで、80%以上正答できる児童を8割以上にする。

第1学年【算数】

1. 実態の分析

- 「数と計算」の領域「個数を比べること」、「個数や順番を数えること」、「数の大小、順序と数直線」の達成率は90%程度である。「繰り上がり繰り下がりのない計算」は、達成率は80%程度である。「10といくつ」や「10がいくつと1がいくつ」という数の見方が理解できていない。
- 簡単な文章題の解き方を学習したが、テストやノートの自力解決場面をみると2割の児童が題意を捉えきれずに立式・解答をしている。問題文の読み取りとどのような場合に加法や減法を用いるのかの判断に課題がある。
- C測定の領域における「時刻の読み方」の達成率は90%である。

2. 改善策

- 具体物を操作する活動を多く取り入れる。＋や－の意味もその操作を通して理解できるようにする。その際、言葉でも説明させるようにする。
 - 板書は、具体物、ブロック等、そして、数字や言葉に関連付けて書くことで、分かりやすくする。
 - ノートに写す際も、式や答えだけでなく、簡単な図や絵、言葉を書かせることで意味を理解させる。
 - 授業中と家庭学習で計算カードに継続的に取り組ませて定着を図る。
 - 算数少数教員と連携を図り、個に応じた指導の充実を図る。
- <改善策に対する検証>
- 單元ごとのワークテストで、80%以上正答できる児童を8割以上にする。